

【背景と目指す姿】

- 佐野地区は、耕地面積の8割を水田が占めており、水稻依存型の経営体が多く、**米の直接支払交付金の廃止による所得減少への対応が急務**となっている。
- そのため、**機械化一貫体系が可能なねぎの導入**により、土地利用型園芸の産地づくりを進める。
- また、**販路については、単価が安定し、出荷調整作業が省力でき、運送コストが削減できる市内食品加工業者や県内野菜カット企業**を想定している。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):0.6ha ⇒ 目標(令和2(2020)年度):10.9ha

2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作農家向けセミナー・講習会の開催、JA広報誌の掲載による担い手の意識高揚 ・佐野市、安足農業振興事務所と連携した稲作農家の経営意向調査と経営分析・設計の実施 ・集落営農組織等の法人化を契機とした導入推進 ・ほ場整備計画地域に対する部会等による露地野菜の導入と団地化の推進
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・農家向けの機械銀行(機械レンタル)の体制整備 ・アグリチャレンジ(JA出資型法人)による周辺生産者からの収穫・出荷調整作業受託システムの構築 ・雇用労働力の導入意向調査及び他品目農家との調整による年間雇用体制の構築とパートの募集・仲介
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・契約取引専門家等からの契約取引のノウハウの習得 ・県から提供された食品企業の需要情報の活用や商談会への出展る販路開拓 ・物流コスト低減に向けた、他産地との連携による物流システムの構築



加工・業務用野菜産地づくり
情報交換会(佐野市の部)



「水田農業高度化研修会」
ネギの収穫作業の実演研修